

2025年3月25日

2024年度卒業式・学位記授与式 告辞

下関市立大学  
学長 韓 昌完

2024年度の卒業式・学位記授与式において、下関市立大学は学部436名の卒業生と、大学院から9名、特別支援教育特別専攻科から5名の修了生を社会に送り出します。本日は、皆さんと卒業まで励まし支えてこられたご家族の方々に、大学を代表して心からお祝い申し上げます。また、下関市長 前田 晋太郎 様、ならびに下関市議会議員 林 真一郎 様にご臨席を賜りこの良き日を迎えられましたこと大変嬉しく思います。

皆さんは今まさに、AIが社会の中心的な存在となっていく、新たな時代の幕開けを迎えています。日本は手塚治虫氏による『鉄腕アトム』の誕生からロボットに対する憧れや親しみを深め、今でも産業用ロボットの製作においては世界の半数を占めるほどの先進国です。これからは、漫画やアニメで親しんできたヒューマノイド型ロボットが現実のものとなり、AIがますます私たちの生活に寄り添う時代となるでしょう。

昨今、NVIDIAとSoftBankが共同で、全国規模のAIプラットフォーム構築を目指しています。これは、単なるAI活用を超えて、AIの知能そのものを生み出す人材が集う場を日本に創り上げる壮大なプロジェクトです。皆さんがこれから進む社会は、AIをただ使いこなすだけでなく、AIそのものを創造し、育てる基礎的な知識や能力を求められる社会になります。

振り返れば、AIの概念は1950年代にアラン・チューリングが提唱した「機械にも知能があるか?」という問いから始まりました。それから約70年、AIは社会のあらゆる領域に深く入り込み、人間の知的活動を模倣するだけでなく、人間の感性に響く創作物すら生み出すようになりました。

現代は、知的ネットワークがかつてないほどオープンになっています。オンラインを通じて世界中の知識人と容易に繋がるのが可能になり、新しい情報を積極的に取り入れるかどうかは個人の選択次第です。知識体系が開かれた分、AIの活用をめぐっても、何を目的とし、どのようにAIに指示を出すかが重要になります。技術だけでなく、創造性や共感性、倫理観といった人間ならではの能力がますます重要となるでしょう。

世界中では、日々新しいAIコンテンツが生み出されています。特に、簡単な文書作成やコーディング、情報要約などの得意な分野では作業効率が飛躍的に向上していますが、まだまだ万能とまでは言えません。しかし、わずか5年前まで今のようなAIすらも夢物語だったことを思えば、数年後には「できたらいいな」を一瞬で実現するような万能AIが存在しているかもしれません。その時、あなたがどの程度AIを理解し、AIを活用できるスキルや技術を備えているかによって、人生の質が大きく変わるでしょう。

人類に起きた最初の革命は「認知革命」であり、架空のものや想像したことを相手に伝える言葉や記号、数字などが誕生する契機となりました。言葉によるコミュニケーションで繋がった人類は、農業革命による定住化と人口増加によって社会をつくりました。産業革命で馬に変わって車が走り出したかと思えば、情報革命によってインターネットが世界中の人と人とを繋いだことで、世界は統一に向かっています。さらに、スマートフォンなどによってその動きは加速されました。人間はテクノロジーを作り、テクノロジーは人間の生活や人間社会を大きく変えてきました。次の革命はAIです。さあ、あなたは どうしますか？

大学を卒業してからも、自分の人生に必要なAIと共に生きる術を磨き続けてください。あなたが本当にやりたいことを見失わない限り、人生の舵を握るのはいつでもあなた自身なのです。かの有名なスティーブ・ジョブズの言葉を借りるならば、「Stay Hungry. Stay Foolish.」。新しいことを恐れず貪欲に、そして自分の心に従って愚直に、本学を卒業してからもあなた自身の幸せのために学び続けてください。本学も、少子高齢化による社会課題が顕著となる2040年を見据えて『SCU Vision 2040』を掲げ、データサイエンス学部や看護学部といった新しい領域の開設を実現してきました。これからも、世界に通用する名門大学への道をつくっていきますので、ともに未来を見つめて歩んでいきましょう。

卒業生の皆さんの前途が、AIを友に、豊かな人生を拓く素晴らしい道のりとなることを心より祈念し、告辞いたします。

本日は誠にありがとうございます。